

東京薬科大学新聞

発行所 東京薬科大学 新聞会
責任者 矢内 光

六月号

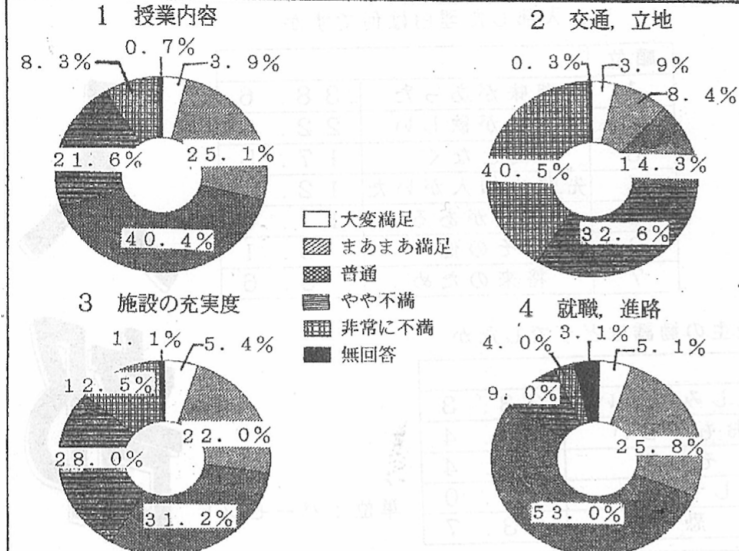
アンケート結果発表

あなたはどの大学に満足していますか？

先日、新聞会では一年生から三年生を対象に、本学に関するアンケートを行った。回答は各項目に対して「大変満足・まあまあ満足・普通・やや不満・非常に不満」から選ぶ形式で行われた。結果は左記のグラフの通りである。

「一、授業内容」の項目に対しては、批判がいくつもの特定の講義に集中していた。また、一教室当りの人数が多すぎ、講義中うるさい、科目数や課題が多い、講義のペースが速い、板書が読みにくいなどの意見もあった。

「二、交通・立地」の項目では、「バス・立地」の項目では、バス・立地が高い、多摩センター行きのバスの本数が少ないなどの、交通の便の悪さに対する意見が目立った。しかしその一方で、自然が豊かである点を評価する意見も多く見られた。



「三、施設の充実度」の項目に対しては、生協食堂に対して意見が集中した。内容として、メニューが少い、混雑して座るのに苦労する、値段が高いなどの意見が多く見られた。また、図書館にしても、全体的に資料が少ない、理系資料だけでなく様々な分野の本を入れてほしい、館内が暑いなどの意見があった。この他に、談話室がたばこ臭く汚い、生協店舗の営業時間を長くしてほしい、学生が自由に使えるパソコンを増やしてほしいなどという意見が見られた。

「四、就職・進路状況」の項目では、低学年においてこの問題に対する関心がまだ低いのか「よく分からない」という回答が大部分を占めた。また、薬学部では薬剤師国家試験の合格者の低下を心配する意見も目立った。

今回のアンケート結果は、学生の抱える大学に対する要望がよく表れているといえる。大学側には学生の意見を広く取り入れ、学生がより良い環境で勉学に励めるような大学づくりに希望したい。またそのためには、学生側自身の努力も欠かすことができない。最低限、講義中には静かにする、談話室をきれいに使用するなど、他の学生の迷惑にならない行動をとってほしい。

ブルー・オズボーン写真展

家族の肖像

ブルー・オズボーンはもう十五年以上もこんな親子の写真を撮り続けて出されてきた。ブルー・オズボーンはもう十五年以上もこんな親子の写真を撮り続けて出されてきた。ブルー・オズボーンはもう十五年以上もこんな親子の写真を撮り続けて出されてきた。

の人の心の中には、こういう家庭はうまくいっていないのだからという偏見があるのかもしれない。そのため、意外性があり、見る者の意表を突いて驚かされる。作品が発表された当時、社会から厄介者扱いされていたバンクが、一枚一枚の親子の姿を見ている写真であった。一般では外部からの不純物の混入を防ぐため、服装から気圧の調節に至るまで厳しい衛生管理が成されていた。また、研究棟では、人体と薬の関係に興味を持ってもらうために電子顕微鏡で脂肪肝の細胞などを観察してもらった。この見学で見学者は人体における薬の安全性について再度考えさせられたようだ。

学内展

今月中旬、文化部門主催の学内展が開催される。毎年数多くの洗練された作品が集まるこの展示会には、上級生に加え、新入生も参加する。出品に向け、新入生は二ヶ月という準備期間を短く感じたら事だろう。また、二年生も教える立場となり色々な苦労を経験したと思う。そうした苦労を経て今回、新しい発想の作品と、技術的にも優れた作品が並んで展示される予定だ。春展とはひと味違った趣向が期待できるだろう。普段は芸術に触れる機会のない方も是非、この学内展に足を運んで欲しい。

薬味

五月十九日に公開され、全米の映画館を満員にした「スター・ウォーズ・エピソード1」。この作品の監督ジョージ・ルーカスが最も強い影響を受けた映画監督が日本にいた。「世界のクロサワ」と黒澤明監督である。黒澤明監督は国内よりもむしろ、海外での評価が高い。彼は日本人として初めて、アカデミー特別名誉賞を受賞した。この賞はチャップリンなど映画界で偉大な功績を収めた人へののみ与えられる。映画にかける監督の熱意が、周囲のスタッフを奮えあがらせるほどだったという。彼の作品はわずかに三十本しかないが、映画に対する頑なな思いが、他の映画監督に影響を与えていったのだ。ルーカスが受けた影響の一つとして「隠し船の三人組」の二人の悪党と娘が「スター・ウォーズ」一作目の二体のロボットと言いや姫のモデルとなったと言われている。また今回の作品にも、カメラワークや役者の動きなど随所に黒澤明監督の影響が見られる。黒澤明監督が亡くなって九ヶ月、追悼の意を表し、「どろ平太」が今年映画化される。この作品は、かつて黒澤明監督を含む四人が結成した「四騎の会」が執筆した時代劇である。「そんな男があったら、もっと面白い映画を撮れよ」黒澤明監督からそんな皮肉を言われた。自分はもろろん、他人が映画を作る時にも決して妥協しない人だからだ。そういった彼の思いが切り開いてきた道は、映画監督だけでなく、映画を愛する全ての人に何かしら通じる部分がある。それが今日の映画界に大きな足跡を残している。死してなお、映画界に多大な影響を与え続ける、それが黒澤明映画だ。(流師)

見学会

Early Exposure
五月中旬から下旬にかけて薬学部の一年生を対象に「Early Exposure」が実施された。見学先は東京慈恵会医科大学病院、北里大学病院、北里大学東病院、東京医科大学病院の八王子薬剤センター、佐藤製薬、グレラン製薬、都立衛生研究所の七カ所であった。

今回のこのうち北里大学病院、グレラン製薬、都立衛生研究所の三カ所を紹介する。北里大学病院では、病院内の施設である、製剤課、調剤課、医薬品情報センター、薬品管理課を見学した。それぞれ別の場所で病院薬剤師の働きぶりを見る事ができた。特に医薬品情報センターでは、薬学に限定しない幅広い知識が薬剤師に求められている事を実感した。

グレラン製薬では、工場と研究棟を見学した。製剤工場

の人の心の中には、こういう家庭はうまくいっていないのだからという偏見があるのかもしれない。そのため、意外性があり、見る者の意表を突いて驚かされる。作品が発表された当時、社会から厄介者扱いされていたバンクが、一枚一枚の親子の姿を見ている写真であった。一般では外部からの不純物の混入を防ぐため、服装から気圧の調節に至るまで厳しい衛生管理が成されていた。また、研究棟では、人体と薬の関係に興味を持ってもらうために電子顕微鏡で脂肪肝の細胞などを観察してもらった。この見学で見学者は人体における薬の安全性について再度考えさせられたようだ。

今回のこのうち北里大学病院、グレラン製薬、都立衛生研究所の七カ所であった。

今回のこのうち北里大学病院、グレラン製薬、都立衛生研究所の七カ所であった。

今回のこのうち北里大学病院、グレラン製薬、都立衛生研究所の七カ所であった。

今回のこのうち北里大学病院、グレラン製薬、都立衛生研究所の七カ所であった。

入部傾向

一、どの部門に所属していますか

順位	薬学部	順位	生命科学部
1	学術 29.8	1	文化 30.2
2	体育 22.7	2	学術 16.7
3	委員会 19.3		無所属 16.7
4	サークル 18.9	4	体育 15.6
5	文化 18.5	5	サークル 13.5
6	無所属 17.6	6	委員会 10.4
7	同好会 11.8	7	同好会 7.3

二、入部した理由は何ですか

順位		
1	興味があった	38.6
2	友達に欲しい	22.2
3	何となく	17.5
4	先輩や知人がいた	12.4
5	経験がある	11.6
6	その他	6.1
7	将来のため	5.6

三、入ってみてどうでしたか

順位		
1	期待通り	39.9
2	その他	13.1
3	期待以上	10.8
4	期待はずれ	4.0
5	論外	3.2

四、上級生の勧誘はどうでしたか

順位		
1	親しみやすい	33.3
2	おもしろい	14.4
	その他	14.4
4	しつこい	6.0
5	怖い	3.7

単位：パーセント

先日、新入生に対し入部状況に関するアンケートを行った。回収率は五五・七パーセントだった。結果は左の通りである。

「一、あなたはどの部門に属していますか」という質問の回答は、薬学部では学術部門が多かった。学術部門には薬学部関係のものが多いため、薬学部の新入生の興味をひきつけたのだろう。一方で、生命科学部では文化部門が多かった。これは、文化部門の特定の部に人気を集めたことが理由として考えられる。また無所属と回答した人の割合は昨年より増加した。その理由として「興味のあるものがなかった」を挙げた人が多かった。

「二、入部した理由は何ですか」という質問では、両学部ともに約半数の人が「興味があったから」と答えた。その次に「友達に欲しいから」が多かった。これは何か新しい事を始めようとする人や、交友の輪を広げたいと考える人が多いからだろう。また「何となく」を答えた人もいて、友達や雰囲気につられて入った人もいたようだ。

「三、入部してどうですか」という質問に対して「期待通り」または「期待通り」という回答が過半数を占めた。多くの新入生が、自分が入った部やサークルなどに満足していた。その一方で、不満を感じている人も一割ほどいるようだ。現在、そう感じている人も、続けていこうと何かに楽しいことが見つかるだろう。

「四、上級生の勧誘はどうでしたか」という質問で「親し

みややすい」や「おもしろい」といった好意的な意見が大半を占めた。しかし「怖い」や「しつこい」といった答えも若干寄せられた。上級生は、新入生のこのような意見を参考に、今後の勧誘のあり方を考えてほしい。

大学では、何事も自分から行動を起こさなければ始まらない。部活、サークル、委員会などの活動に参加することは、その第一歩になるに違いない。また、有意義な大学生生活を送るために、何かに挑戦してみるのもいいだろう。また、どの活動にも参加していない人も、大学での部活動やその他の課外活動に参加してみようだろうか。きっと今までにはなかった何かが見つかるだろう。

最近、だんご兄弟の歌を聞かなくなった。以前はあんなに流れていたものだが、やはり一時の流行でしかなかったのだから。しかし、一時的なものなのだと多いことか。流行の速さには、時として追いつけないことがある。どうやら流行どつきあうには、何かしらの考えを持っておく必要があるそう。

流行とのつきあいかた

ポケットベルサービスの最大手である東京テレメッセージが倒産した。ポケットベルは、一時期女子中高生の間に流行し、九五五年に加台数が一千万台に達したが、その女子中高生の人気を失い転落が始まった。現在普及率は三パーセント

流行は流動的で日々変化しているものから自分に取り入れたいものだけを選択することが必要だろう。たとえ世間一般で流行していても、自分の信念にあっていなければ関係ないと思うくらいの確固たる考えを持ちたい。

(藤原)

一年男子		陸上競技部	
一位	中里 政志	アスレチック研究会	
二位	西水 真治		
一年女子		バドミントン部	
一位	春藤 起子	硬式庭球部	
二位	古屋 麻美子		
一般男子		陸上競技部	
一位	流石 学	ラグビー部	
二位	有吉 広太郎		
一般女子		陸上競技部	
一位	村上 しづか	ワンダーフォーゲル部	
二位	鈴木 香里		
研究室男子		第二衛生化学	
一位	原田 朋和	化学	
二位	藤原 郁夫		
研究室女子		細胞機能学	
一位	森口 友美子	第二薬理学	
二位	本堂 貴子	職員	
		生命物理科学	
一位	林 昌樹	第一薬剤学	
二位	四元 聡志		

先月十五日に体育部門主催のマラソン大会が行われた。結果は左表の通りである。

今年も例年通り、一般男子と一年男子は七キロ、研究室男子および女子全員は三・五キロを各々のペースで走っていた。また、参加者の衣装にも個性が表れていて、女装をする者や部活のユニホームを着る者もいた。

最後に、体育部長の北原正之さんに感想を伺った。「今年の大会は、参加者約六百名のうち約百五十名が新入生でした。当日は絶好のマラソン日和であり、賞品も豪華であった。例年以上の盛り上がりを見せました。最後に、今大会に協力して頂いた関係者各位に紙面を借りて御礼申し上げます」

マラソン大会

行事予定

六月
十二日(土) 合唱団定期演奏会
十六日(水) 学内展
二十三日(水)

編集後記

現在、新聞会では委員会を作るのが流行っている。因にボクはS・D。(久方)

最近、人間の作った最高の発明品は「電子レンジ」だと思いはじめた。(手羽先)

♪新聞会に入って約二カ月。あまりにも楽しくてどうとう門限破りました。(睦月)

♡この大学に来てやっと実習をした。実習ハンザイ!でもレポートが...。(直)

①ああ、なんだかなあ。かなりねむい。五月病の次は六月病か。(沙恵)

♪日野く豊田間で大仏が見えるのは、疲れによる錯覚か。妄想による幻覚か?(えせ)

☆貧乏暇なし...ってわけて、バイトに明け暮れて、新聞会にあまり来られなくてごめんね。(ゆか)

♪皆、壊れてるね。でも、これで休めるかな。(L)

◇本当人生色々あるね。(みん)

♪なで青い鳥探そうよ。(ど)

☆大仏、大仏、大仏どこ、うそつき!(えせ)

幽霊サザエこうご期待!(殺屋八兵衛)